

1. 研究課題名：非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

古米 弘明 （社団法人日本水環境学会  
ノンポイント汚染研究委員会）



3. 研究実施期間：平成 23 年度

4. 研究の趣旨・概要

国内の湖沼や内湾などの閉鎖性水域の栄養塩濃度は依然低下していない状況にあり、この原因として、市街地、農地など非特定汚染源からの発生負荷量が正確に評価されておらず、負荷量の寄与の実態が不明である。また現在用いられている原単位は古い情報に基づいている。

本研究は、非特定汚染源からの汚濁負荷量を適正に把握・評価し、湖沼・内湾への全流入負荷量に対する非特定汚染源の位置づけを、最新の科学的知見をもとに明確にするものである。

これにより、非特定汚染源からの負荷流出を踏まえた、确实かつ効果的な流出負荷削減対策の策定や非特定汚染源制御の現実的な方法論策定に貢献することができる。

5. 研究項目及び実施体制

非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究（社団法人日本水環境学会）

## 6. 研究のイメージ

- ・内湾や湖沼の栄養塩濃度は、依然減少していない。
- ・森林、農地、市街地などの非特定汚染源からの負荷量寄与の実態が不明である。
- ・総量規制での原単位の情報が古い調査データに基づくものである。



**目的** 非特定汚染源からの汚濁負荷量を適正に把握・評価し、湖沼・内湾への全流入負荷量に対する非特定汚染源の位置づけを、最新の科学的知見をもとに明確にする。

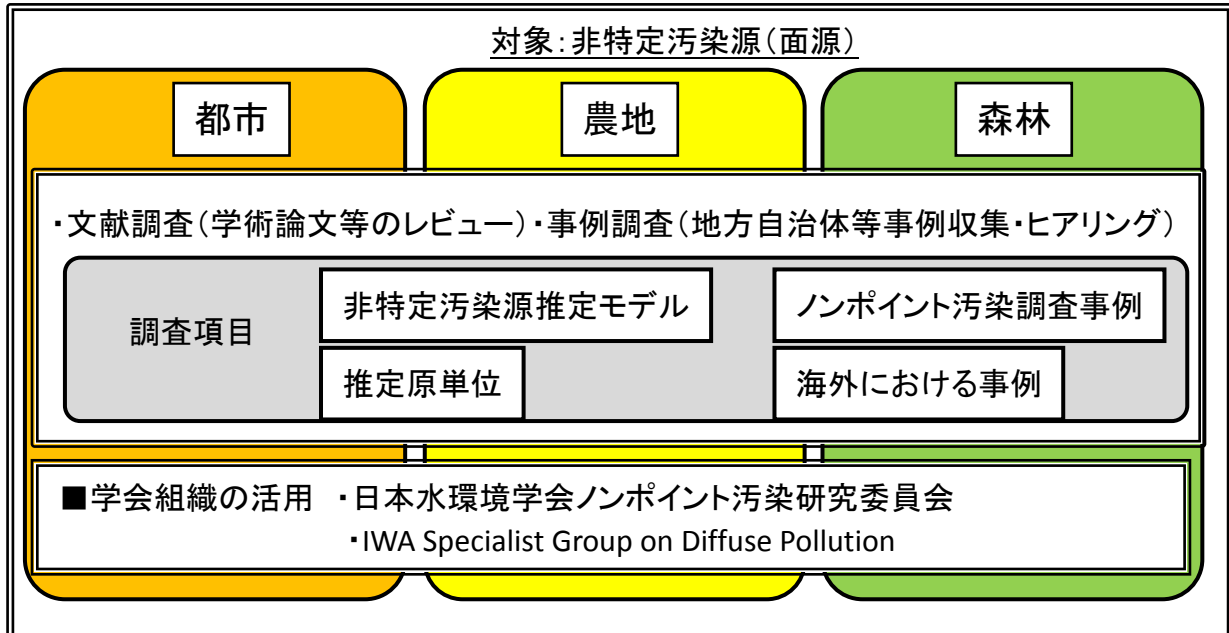
- 目標**
- ・非特定汚染源総合データベースの構築（原単位、モデル、事例）
  - ・新しい非特定汚染源原単位の推定手法の提案【2年目構想】



- 研究** 非特定汚染源からの負荷流出を踏まえた確実かつ効果的な負荷削減策の策定へ
- 効果** 地域社会と連携した非特定汚染源制御の現実的な方法論策定



### ◆本研究の方法



- ◆非特定汚染源負荷情報のデータベース化
- ◆事例（調査・モデル化）
- ◆原単位
- ◆非特定汚染における原単位の考え方の整理

- 翌年度** 非特定汚染源負荷の要因の解析
- 【構想】** 発生源別流出負荷量の比較
- ・新しい原単位の推定手法の提案